

鏡九面徑各二寸、各納緋袋

〔延喜式四〕伊勢大神宮、山口神祭

鐵人像、鏡、鉾各卅枚

〔延喜式三〕東宮八十島祭

鏡卅面二面、徑五寸、八面、徑一寸

〔執政所抄下〕御賀茂詣事中申日

御賀茂詣定事 恒例大事也、被始神寶、上達部殿上人家司職事、被參仕之

神寶事略 一尺御鏡三面付緒入帷納平文置口管三合、同折立

〔土左日記〕五日承平五年二月ながめつゝくる間に、ゆくりなく風ふきて、こげどもくしりへしぞき

にしぞきて、ほとくしくうちはめつべし、揖取のいはく、この住吉の明神は、れいの神ぞかし、ほ

しきものぞおはすらむ、今はいまめくものか、さてぬさを奉り給へといふ、いふに隨ひて幣たい

まつる、かくたいまつれ、どもはら風止までいや吹に、いや立に、風浪の危ふければ、揖取またい

はく、幣には御心のいかねば、みふねもゆかぬなり、なをうれしと思ひたぶべきもの、たいまつり

たべといふ、またいふにしたがひて、いかはせむとて、まなこもこそふたつあれ、たゞひとつあ

る鏡をたいまつるとて、海に打はめつれば、いと口おし、さればうちつけに海は鏡のごとなりぬ

れば、ある人のよめる歌

千早振神の心のある、海に鏡をいれてかつみつる哉

いたく住の江の忘草、岸の姫松などいふかみにはあらずかし、めもうつらく、鏡に神のこゝろをこそ見つれ、揖取の心はかみの心なりけり、

〔延喜式三〕國造奏神壽詞